

欧州統合と「招かれた帝国」：欧州統合の生成期における米欧間の非公式ネットワーク

高津， 智子

<https://doi.org/10.15017/1928612>

出版情報：Kyushu University, 2017, 博士（文学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏 名 : 高津 智子

論 文 名 : 欧州統合と「招かれた帝国」
——欧州統合の生成期における米欧間の非公式ネットワーク——

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本稿は、第二次世界大戦中から 1950 年代半ばまでの時期を対象に、欧州統合がどのようにして生成されたのかという欧州統合史の根源的な問いを、米欧間の非公式ネットワークに着目して論じるものである。分析対象は、ヨーロッパ運動 (European Movement) と統一ヨーロッパ・アメリカ委員会 (American Committee on United Europe、以下 ACUE) という二つの民間組織の間のネットワークである。前者は、1948 年にイギリス元首相チャーチル (W. Churchill) の下、西欧最大の欧州統合推進運動として誕生したヨーロッパの組織であり、後者は、それへの資金提供と活動支援を目的として 1949 年にアメリカのインテリジェンス・コミュニティの中から誕生した組織である。

この米欧間のネットワークについてはアメリカでの新史料公開により研究の端緒が開かれたばかりである。数少ない先行研究では、ACUE が、アメリカ政府が欧州統合に関与するためのバックチャンネルであったことや、欧州統合政策の立案に影響をもつヨーロッパ運動と秘密裏に協力関係を築いていたことが指摘されている。しかし、両者の間でどのようにしてネットワークが構築されたのか、それが欧州統合にいかなる影響を与えたのかという点についてはほとんど明らかにされていない。そこで本稿は、米欧の各文書館に所蔵されている両組織の内部史料を渉猟することで同ネットワークの全体像を把握し、それが欧州統合の生成期において果たした役割を解明することを目的とした。

第 1 章では、このネットワークの誕生の背景を第二次世界大戦期に構築された米欧間の人的つながりにまで遡って考察した。具体的には、ACUE の設立者であり後に CIA 長官となるダレス (A. W. Dulles) が、スイスを拠点とする対ナチ諜報活動の過程でヨーロッパとの人脈を開拓したこと、それが戦後、アメリカのインテリジェンス・コミュニティとヨーロッパ運動とを結び付けたことを明らかにした。

第 2 章では、ダレスを結節点とする米欧間のネットワークを通じて ACUE が誕生するに至った過程を考察した。ACUE は、欧州統合の促進によるソ連封じ込めというアメリカ政府の反共

政策に根差したものであったが、その設立はアメリカ側が主導したのではなく、資金難に陥りアメリカからの財政的な支援に頼らざるを得ない状況にあったヨーロッパ運動の意向を受けたものであった。そのため本稿は、ACUE の設立を、米欧関係史の大家ルンデスタッド (G. Lundestad) が示した「招かれた帝国」論の顕著な事例として位置づけた。

しかし、ACUE とヨーロッパ運動の関係には、早くも 1950 年に亀裂が生じる。第 3 章では、欧州統合構想をめぐる両者のパートナーシップが変化していく過程を分析した。ACUE は、ソ連に対抗するための手段として西欧の超国家的な統合を望んでいたが、ヨーロッパ運動を率いるチャーチルは、自国の主権が制限されることへの警戒感から政府間協力にもとづく統合を主張した。その結果 ACUE は、超国家的な「ヨーロッパ連邦」の実現を支持する連邦主義者であるベルギー元首相のスパーク (P. H. Spaak) に接近し、チャーチルに代わって、彼をヨーロッパ運動の新たなリーダーに就任させた。それ以降 ACUE はヨーロッパ運動が展開する様々な活動に関与し、欧州統合政策の立案過程に非公式に関与することに成功する。

第 4 章では、1950 年代半ばにおいて ACUE がヨーロッパ運動を通じて積極的に関与を試みた政策として、西欧諸国の超国家的な政治統合構想である欧州政治共同体の設立条約の起草を事例に分析を行った。具体的には、ACUE がヨーロッパ運動とともに「ヨーロッパ憲法研究委員会 (Comité d'études pour la constitution européenne)」を設置し、そこで独自の条約案を起草していったこと、その活動をサポートすべく、ACUE の要請を受けてハーヴァード大学の法学・政治学の専門家から成る研究グループが結成されたことを明らかにした。

第 5 章では、このハーヴァード大学研究グループが提供した学術的な援助を受けて、ヨーロッパ憲法研究委員会では米欧の法律専門家により連邦主義的な統合構想にもとづいた独自の条約案が採択されるに至ったことを考察した。そして、この条約案は、実際に欧州政治共同体条約の起草を担った欧州組織の中で基礎資料として参照され、同条約に非公式な影響を与えたことを明らかにした。

以上の分析を通して、本稿は以下の主張を提示する。従来の研究では、欧州統合を推進したアクターとしてもっぱら、西欧各国の政府や官僚といったヨーロッパの公式の外交アクターに焦点が当てられてきた。しかし、本稿の考察を通して示されるように、ACUE に代表されるアメリカの非公式な外交アクターも欧州統合の生成において重要な役割を果たしていた。それは、アメリカによるヨーロッパへの一方的な干渉というよりもむしろ、アメリカからの支援を必要としたヨーロッパ側の求めに応じてなされた関与だった。欧州統合をヨーロッパに限定された内的な事象として捉えるのではなく、米欧間で継続的に行われたトランスアトランティックな交流を視野に入れた考察を行うことによってはじめて、欧州統合の具現化・制度化のプロセスを立体的に理解することができるのである。